

進路と学習を考える

# 前高ジャーナル



発行 群馬県立前橋高等学校

(編集 進路指導部)

〒371-0011 群馬県前橋市下沖町 321-1

TEL: 027-232-1155 FAX: 027-233-1046

Email: maebashi-hs@edu.g.s.n.ed.jp

## 2019年度入試を振り返って

### ◆2019年度入試トピック◆

○センター試験平均点アップ(予測)

○志願動向は国公立大学・私立大学ともに安全志向か

- ・難関大で志願者減少
- ・センター配点比率の高い大学、科目数の少ない公立大への流れ

### 1. 大学入試センター試験

1月19日(土)・20日(日)の2日間にわたって平成31(2019)年度大学入試センター試験が全国各地で行われた。



志願者数は4年ぶりに減少。現役志願率は前年比0.6ポイント減少の44.0%で、センター試験開始以降初めての前年比割れとなった(【表1】)。一方、既卒生の志願者は増加した。大規模私大の定員管理の厳格化の影響で再チャレンジする受験生が増えたためと思われる。

前高生は318名が受験した。例年どおり、慣れ親しんだ校舎が会場となった。

ベネッセ・駿台による5教科900点満点の平均点予測は、文系・理系ともに昨年比10点以上のアップとなっている。前高生の自己採点結果でも前年の平均点を超えた。しかも、前年に比べて20点を大きく上回る増加を見せている。(【表2】)。

全国的な平均点アップの要因としては、受験者数の多い国語やリスニングでの大幅な平均点アップがあげられる(【表3】)。

### 2. 国公立大学二次試験

国公立大学の志願者数は8年ぶりに増加に転じた。その内訳については、国立大学が8年連続で減少したのに対して、公立大学は4年連続で増加した。公立大学の増加分が国立大学の減少分を上回ったため、全体として増加した形だ(【表4】)。

なお、国立大学の募集人員が減少しているのは、後期日程の廃止・縮小、推薦・AO入試の拡大による。

センター試験の易化で高得点層は増加したはずだが、国立難関大の志願者数は減少した。その背景には受験生の安全志向があったと思われる。難関大以外の大学や公立大学に流れたようだ。難関大では二次試

【表1】センター試験概況<全国>

年度	志願者	現役志願率(%)
2015	559,132	42.5
2016	563,768	43.4
2017	575,967	43.9
2018	582,671	44.6
2019	576,830	44.0

大学入試センター発表資料による

【表2】5教科(900点満点)平均点

年度	全国*		前高	
	文系	理系	文系	理系
2015	540	570	676.6	661.8
2016	547	564	645.3	659.2
2017	556	562	659.0	646.1
2018	554	564	648.1	646.9
2019	570	576	671.0	675.6

大学入試センター発表資料による

\*全国平均はベネッセ・駿台による推測値

【表3】主要科目の平均点<全国>

年度	2018	2019	差
国語	104.7	121.6	16.9
世界史B	68.0	65.4	-2.6
日本史B	62.2	63.5	1.3
地理B	68.0	62.0	-6.0
数学IA	61.9	59.7	-2.2
数学II B	51.1	53.2	2.1
物理	62.4	56.9	-5.5
化学	60.6	54.7	-5.9
生物	61.4	62.9	1.5
英語	123.8	123.3	-0.5
リスニング	22.7	31.4	8.7

大学入試センター発表資料による

【表4】国公立大学志願状況(独自日程は除く)<全国>

設置	2018年度			2019年度			志願者前年比
	募集人員	志願者数	倍率	募集人員	志願者数	倍率	
国立	78,998	330,205	4.18	78,366	330,153	4.21	-52
公立	21,549	135,503	6.29	22,060	139,683	6.33	4,180
計	100,547	465,708	4.63	100,426	469,836	4.68	4,128

駿台資料による

験の配点比率が高く、一方それ以外の大学ではセンター試験の配点比率が高い。また、公立大学はセンター試験の科目数が少ない大学が多い。受験生が合格可能性の高い志願先を求めたようすがうかがえる(【表5】)。

前高生の出願動向に安全志向は見られなかった。むしろ強気の出願であったといえるかもしれない。ただし、無謀な出願ではなく、自らの実力をしっかりと見極めた上での出願であったように思う。結果、平成27(2015)年度入試以降減少が続いていた国公立大学現役合格者数が増加に転じた(【表6】)。しかも、次ページにあるとおり、難関大学の合格実績は目を見張るものがあつた。

【表5】難関国立10大学志願状況<全国>

大学	志願者数		指数
	2018	2019	
北海道	9,849	10,341	105
東北	6,640	6,252	94
東京	9,675	9,483	98
東京工業	4,698	4,719	100
一橋	4,136	3,810	92
名古屋	4,805	4,803	100
京都	8,233	8,025	97
大阪	7,867	7,536	96
神戸	9,980	9,959	100
九州	7,725	7,548	98
計	73,608	72,476	98

指数は前年を100とした比率。駿台資料より

【表6】国公立大学合格状況<前高>

設置	現浪	2015	2016	2017	2018	2019
国立	現	146	138	126	115	154
	既卒	64	41	44	52	62
公立	現	12	12	15	9	11
	既卒	4	3	4	5	7
計	現	158	150	141	124	165
	既卒	68	44	48	57	69

平成31年4月作成「進路概況」による

### 3. 私立大学一般入試

私大一般選抜(推薦・AO等の特別選抜を除く)ののべ志願者数は13年連続で増加している。ただ、定員管理の厳格化にともなう合格者数の絞り込みへの不安から、受験生の安全志向が見られた。「早慶上理」(早稲田・慶應・上智・東京理科)「MARCH」(明治・青学・立教・中央・法政)といった難関大で志願者が減少した一方で、それ以外の大学では前年比110.7%と志願者を集めた。「MARCH」以上の難関大を回避した受験生の受け皿になった構図がうかがえる。さらに、センター利用方式の志願者数は前年比116.7%と増加が顕著であり、個別試験の受験を回避する動きもあつた。

【表7】難関私大合格状況<前高>

大学	2015	2016	2017	2018	2019
早稲田	54(32)	32(18)	56(29)	42(22)	35(29)
慶應	20(11)	23(16)	25(9)	19(11)	10(6)
上智	7(5)	2(2)	14(10)	2(2)	10(6)
東京理科	63(39)	43(37)	42(29)	47(30)	69(45)
明治	79(54)	48(39)	58(40)	49(30)	64(49)
青山学院	26(23)	13(10)	9(7)	5(3)	17(15)
立教	24(17)	16(8)	21(16)	15(11)	22(16)
中央	70(56)	50(42)	54(42)	38(23)	43(33)
法政	55(42)	40(34)	42(31)	29(17)	49(42)
計	398(279)	267(206)	321(213)	246(149)	319(241)

平成31年4月作成「進路概況」による

大の合格実績は、国公立難関大学同様、すばらしい成果を上げた(【表7】)。学力上層に続く中位層が例年になく厚かつたことが好成绩につながつたのではないだろうか。

前高生の出願傾向は例年と大きな違いは見られなかった。その一方で、いわゆる難関私

# 「応援歌」

平成30年度第3学年主任  
城田 潤二

9年間勤めた県立前橋高校を離れ、現在は北毛の要、沼田の地にて本稿の筆を執っています。今回は平成28年度入学生との3年間を振り返ってという依頼を受けての執筆となります。平成28年度から平成30年度の3年間のかけがえのない軌跡と多少の個人的な思いを綴らせていただきます。第71回卒業式で「凱旋歌」を歌い、卒業していったあの「気宇雄大」な卒業生たちに恥ずかしくない内容となることと、在校生や新入生諸君、保護者の皆様へ少しでも有益な内容となることを祈って筆を進めたいと思います。



2019年3月22日 離任式

「伝統校が伝統を売りにしたら終わりだ」

これは少し誇張した言い回しであり、正確さを欠いた言い方かもしれませんが、正鵠を得ていると言ってよいと考えています。

確かに伝統とは先達の叡智と努力の確かな財産であって、現在の我々に様々な角度から大きな恩恵をもたらしてくれるものです。しかし、変化に伴う現実的な手間を厭い、面倒がり、伝統に凭りかかって先に進もうとしない姿勢は、現実的な停滞のみならず、精神的な後退という側面において問題を抱えていくこととなります。前高は常に動き続けてきたし、これからもそうでしょう。それは「開けゆく世に魁け」る進取の気性によって精神的な後退を排してきたからこそ、現在の前高が真の伝統校として存在しているのだと実感します。平成30年度卒業生の皆も前高の歴史を作り歴史を繋いだ主人公として八面六臂の活躍を見せてくれました。



その活躍の最たるものが2年次3年次の高校総体2連覇。そして、受験における東大6名京大10名、旧帝難関10大学42名合格をはじめとして国立154名、公立11名、気象大学校1

名、私立536名の合格者総数702名の現役合格。また、数字には現れませんが、「質実剛健」の精神を発揮し、自分の可能性を最後まで信じ、諦めずに挑戦し続けた生徒

も多くいました。「文武両道」の実現を果たした学年でした。また、生徒会本部役員選挙で同じ学年から4人もの生徒が生徒会



県高校総体男子総合2連覇  
2018年7月20日 表彰伝達

長に立候補し、鎬を削ったことも忘れられない出来事です。生徒の活躍はもちろん、先生方も大活躍でした。塩原先生が1年次から卒業式のその朝まで476回続けてくださった「朝の英語」、手島先生発案の「DASHプロジェクト」、田村晶先生企画の「文系朝読書」、小内先生が始めた「愚直ノート」、井上先生の取り組み「ほぼ週刊進路通信」、英語科の「英単語王」など学年の先生方が挑戦した取り組みも枚挙するに違がありません。

難関国立10大学合格状況<前高>  
(数字は現役+既卒生。( )内は現役。-は出願なし。)

大学	2015	2016	2017	2018	2019
北海道	4(3)	5(4)	6(4)	4(1)	4(2)
東北	18(15)	18(15)	17(13)	11(9)	24(18)
東京	12(9)	8(4)	10(5)	14(9)	7(6)
東京工業	3(3)	1(1)	2(1)	3(0)	1(1)
一橋	4(3)	2(2)	3(2)	5(2)	2(2)
名古屋	3(0)	1(0)	4(4)	1(0)	2(1)
京都	4(4)	6(4)	9(4)	5(2)	13(10)
大阪	4(3)	2(2)	5(2)	2(2)	2(1)
神戸	2(1)	1(0)	1(1)	1(1)	1(1)
九州	-	-	-	-	-
計	54(41)	44(32)	57(36)	46(26)	56(42)

前高の歴史 平成31年4月作成「進路概況」による

の中で赤城オリエンテーションで英数国の授業を初めて取り入れ、総合学習でポスターセッションに初めて取り組んだのも、2、3年次でASクラスを実施したのも、県議会議員との意見交換会GACHiへ初めて参加したのも、蛟龍館の時間延長が実施されたのもこの学年でした。確かに伝統に囚われずに新しい取り組みを要所要所でしてきましたが、「質実剛健」「気宇雄大」の校訓に「文武両道」の理念を踏まえて、踏まえるだけでなくむしろ校訓と理念の実現に積極的に取り組んできたというべきなのでしょう。

もちろん、これらの活躍は3学年だけの力ではなく、先輩や後輩の活躍、諸先生方のご尽力、保護者の皆様のご理解とご協力なしには成し遂げられなかったものです。

平成30年度卒業生たちは、3年間の前高生活の中で、少しくらいはみ出してもいい、生意気くらいがちょうどいい、自分を過小評価せず挑戦する姿勢を育み、新しい世界へ飛び立っていったと強く感じています。「腕に降魔の剣」を確定的に保持した上で、友と呼べる仲間たちと手を取り合って歌った凱旋歌を忘れずに、世界だけでなく宇宙までも常に視野に入れて挑戦する心を今後、更に育んでいってくれることを願っています。離任式で私が歌った応援歌はこれからの前高を担っていく在校生への思いと同じくらい、またそれ以上に強く、卒業して新たな世界で活躍をする卒業生たちへ贈るべく歌ったものでした。



2019年3月1日 卒業式

在校生・新入生諸君とその保護者の皆様にとって有益な内容をお伝えしながら、3年間共に過ごした学年の生徒や先生方への思いを述べて擱筆する感があります。それだけかけがえのない充実した日々であったという意を汲んでいただき、ご海容いただければ幸いです。